

《第80号》*** 三宅文庫 ***

図書館には、一般の資料とは異なった扱いをしている貴重な資料が保存されていることが多くあります。これらは貴重資料や図書館コレクションと呼ばれ、多くは「〇〇文庫」というように収集者の名前が付けられています。

本学矢巾図書館にも三宅清海(みやけ きよみ)氏(岩手医専第2回生(昭和8年卒)、広島市)寄贈による仏教書を中心とした630点余りのコレクションがあり、特別に別置してあります。

三宅氏は本学に在学中の昭和4年から8年まで報恩寺(盛岡市名須川町)、願教寺(盛岡市北山)等の法話を熱心に聴聞されるなど、若き日を島地黙雷^{※1}・大等^{※2}両師ゆかりの地である盛岡で過ごされたことを徳とし、誇りとしておられた仏教への信仰のあついでした。卒業後は、後輩ならびに若き研究者のためにと、圭陵会学術振興会に年々多額のご寄付をされました。

その中で昭和53年広島圭陵会に出席された黒川廣重名誉教授に仏教書寄贈について相談し、教養部分館への寄贈を薦められたことから、圭陵会を経て申し出られました。昭和54年8月25日、図書95点の寄贈があり、その後昭和63年まで計11回、627点の図書と専用書架が寄贈されました。

島地黙雷・大等全集からはじまり、難解な仏教用語よりは外国語を通した方がわかりやすいと外国語による解説書や、入門書として手塚治虫の「ブッダ」も選定されています。この他にも仏寺の展覧図録、多数の仏教美術書、広島原爆医療の記録なども選定され、絶版のものについては自身の架蔵のものを割いてくださったとのことでした。

三宅氏は、昭和58年、62年にご夫妻で教養部分館に来館され利用状況をご覧になっています。また昭和63年には、本学60周年記念行事に合わせて、三田俊定理事長、大堀勉学長(当時)連署の感謝状が贈呈されています。

「三宅文庫」は平成19年の矢巾キャンパス竣工に伴い矢巾図書館へ移設されています。貸し出しもできますので、一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

- ※1 島地黙雷(しまじ もくらい: 1838-1911) 浄土真宗本願寺派(西本願寺)の僧。周防(山口県)佐波郡和田村の専称寺に生まれ、1868年同志と共に維新直後の京都に出、仏教の改革運動に努め、赤松連城と共に本願寺の改革をした。渡欧した後、鳥尾徳庵と白蓮社を結び、大内青巒と「報四叢談」を発行した。(仏教人物辞典より)。1892年、盛岡市願教寺住職。
- ※2 島地大等(しまじ だいとう: 1875-1927) 新潟県頸城郡三郷村西松之木の勝念寺の住職姫宮大圓、操子の次男として生まれた。4年間の上京をへて、1893年に京都にある西本願寺の文学寮に入学。1902年島地黙雷に見込まれその法嗣となり、のちに黙雷の跡を継いで願教寺住職。(盛岡市HPより)

図書館トリビア

矢巾図書館では和漢古書「病家須知(びょうかすち)」を特別展示中です。「病家須知」とは「病人のいる家ではすべからず知っておくべし」の意味で、江戸時代に医師・平野重誠によりまとめられた、日本最古の家庭看護必携です。岩手医科大学父兄会報「啐啄」102号(2020年)の表紙に取り上げられたことに関連した展示となっています。和漢古書は貴重書のため貸し出しできませんが、現代語訳本は貸出可能です。この機会にぜひ江戸時代の「医の心」に触れてみませんか。

メールマガジンに関する意見・質問は、運用係 tosho@j.iwate-med.ac.jp まで。

<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館